

授業科目	CT2J58	2単位	必修	実習	2学年前期	担当 教員	池田 正雄	松浦 信二		
	保育実習Ⅰ（施設）						三沢 徳枝	佐藤 高博		
授業の概要	① 居住型児童福祉施設等および障がい児通所施設等において10日間の実習を行い、施設の役割と機能について理解を深める。 ② 観察等を通して、施設職員の指導に基づき利用児・者への理解を深め、個々の状態に応じた関わり方について学ぶ。 ③ 施設職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 ④ 大学での学習に加えて、施設実習を通して実際にその場に身を置き、体験することで学びを深める。									
到達目標		学習成果Ⅰ			学習成果Ⅱ			学習成果Ⅲ		
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
① 施設の役割や機能について、実習での体験を通して具体的に理解する。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
② 利用児・者との関わりを通して、より深い理解を可能にする。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
③ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの最善の利益について具体的に理解する。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
④ 養護・支援の計画、観察、記録および自己評価等について基本的な理解をする。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
⑤ 施設職員の役割、業務内容および職業倫理について理解する。		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
凡例 ◎：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために特に重要な目標、○：学習成果Ⅰ～Ⅲを獲得するために重要な目標 査定項目①～⑨はivページ参照										
〈実習の内容〉 <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れを理解する。 (2) 施設の役割と機能について具体的に学ぶ。 2. 利用児・者の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用児・者の様子を観察し、必要な記録を残す。 (2) 利用児・者一人ひとりの状況・状態に応じた援助方法や関わり方について学ぶ。 3. 養護内容・生活環境 <ol style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助の方法について実際的に学ぶ。 (2) 利用児・者の心身の状態に応じた対応の仕方について知る。 (3) 利用児・者の活動と生活環境について注意深く観察する。 (4) 健康管理、安全対策について理解する。 4. 計画と記録 <ol style="list-style-type: none"> (1) 支援計画について理解し、どのように活用されているかを知る。 (2) 記録に基づく省察と自己評価を行う。 5. 専門職としての施設職員の役割と倫理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 施設職員の業務内容について理解を深める。 (2) 職員間の役割分担や連携のあり方について知る。 (3) 施設職員の役割と職業倫理について理解する。 〈実習の形態・方法〉 <ul style="list-style-type: none"> ○見学実習・観察実習 ・実習施設についての理解を深める。 										

- ・実習施設の養護・支援に対する方針・目標について理解する。
- ・一日の流れの把握と、施設で働く保育士の役割と業務内容、健康管理・安全対策のための対応等について理解する。
- ・利用児・者の生活状況および養護・支援の実際を理解する。
- ・学校または地域社会との連携の実際を理解する。

○参加実習

- ・職員のチームワークおよび24時間対応の勤務体制について、体験を通して理解する。
- ・生活の質（QOL）を向上させるために行われる、日常業務について体験を通して理解する。
- ・心身の発達、家庭的背景、施設での適応状況、現在の問題を理解した上で、利用児・者の受容に努め、関わりを深める。
- ・利用児・者間の関わり（利用児・者同士、利用児・者と職員、利用児・者と家族の関係等）について総合的に捉え、理解を深める。
- ・健康管理・安全対策に関する対応や衛生面での配慮を学び、環境整備の必要性について理解する。

〈留意点〉

- ・実習施設の方針・目標を理解する。
- ・特に社会的養護系施設においては利用児の措置理由等を理解する。
- ・特に障がい系施設については、利用児・者の通所・入所理由等を理解する。
- ・利用児・者一人ひとりの心身の状態や生活状況を理解する。
- ・一日の流れを理解し、積極的な姿勢で実習に臨む。
- ・常に課題と問題意識をもって、利用児・者の用語・支援にあたる。
- ・利用児・者に対する養護・支援方法等について、基本的な知識を得た上で実習に臨む。
- ・利用児・者の健康管理・安全対策に関わる留意点を十分に把握しておく。
- ・利用児・者の養護・支援については、特に以下の3点に留意する。 ①平等な対応 ②伝えたい内容を明確にした態度 ③自立を見据えた支援
- ・利用児・者の見守りにおいては、常に視野を広く保ち、死角を作らないような配慮を心がける。
- ・利用児・者の理解のために、さまざまな反応に目を向けるように努める。
- ・勤務時間以外であっても、施設の注意事項や利用規定、規則を遵守する。

成績 評価	実習先の評価 50% 日誌・記録等 50% 合計100%		
教員 から の コ メ ン ト	<p>① 実習中は体調管理に注意し、10日間遅刻や欠勤をしないように取り組んでください。また、報告、連絡、相談を徹底し、施設、大学、保育実習指導I（施設）の担当指導教員との連携を大切にしてください。</p> <p>② 挨拶、礼儀、マナーを守りましょう。</p> <p>③ 明るく、素直に、元気良く、積極的な姿勢で実習に臨みましょう。</p> <p>④ 利用児・者の「生活の場・活動の場」に入っのた実習であることを忘れないようにしましょう。</p> <p>⑤ 実習の際には、実習指導資料を常に傍に置き、参考にしましょう。</p>		
教科 書	書名 著者 発行所	推薦 図書	以下のホームページも参考にしてください。 http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/syakaiteki_yougo/index.html